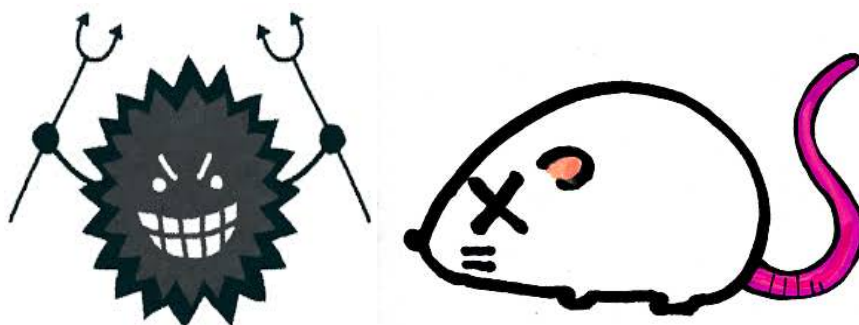


# 感染防止対策について



微生物の中には実験動物の床敷や糞便から感染するものがあります。通常動物では問題ないとされる日和見病原体による感染症でも、免疫不全動物では最悪の場合死亡したりするケースがありますので、動物を持ち出して実験する時には、床敷や糞便を残さないようにその都度清掃・消毒(※)を徹底していただきますようお願い致します。

また、劣悪な飼育環境（過密飼育・汚れた床敷など）では感染症のリスクが高まるだけでなく、動物倫理の観点からも好ましくありません。実験のために一時的に動物を飼育室から持ち出す場合でも適切な環境で飼育・管理していただきますようご理解・ご協力のほど宜しくお願い致します。

※：①違う飼育室の動物実験を同じ実験室で同時に行わない。

②実験が終わる度に実験室の清掃と使用した器具の洗浄・消

毒を行い月に1回はオートクレーブをかける。

平成29年11月  
研究支援センター センター長 小野富三人  
実験動物部門長 根本慎太郎